

平成29年度学校評価実施状況報告書

香川県立観音寺総合高等学校

1 学校評価の流れ

統合初年度の学校評価については、観音寺中央高校で行ってきた評価方式をベースとし、工業3科の項目を加えて実施した。

年度当初に「教育方針」の理念、教育目標、重点項目を踏まえて、それらの実現に向けて各校務分掌・学年団・教科・学科がそれぞれ重点目標と具体的方策を設定した。評価にあたっては、自己評価としてそれぞれの重点目標がどの程度達成できているかを問う形で、2回の評価を行った。10月に上半期における取組みに対する中間評価を行い、2月中旬には下半期を加えた年間評価を実施した。保護者からの評価や教員間での相互評価を得るために、12月に保護者および教職員を対象にアンケートを実施した。

その集計結果等を参考に、2月中旬には各校務分掌・学年団・教科が今年度の成果と課題を総括し、来年度に向けての改善策をまとめた。また、2月上旬の学校評議員会（学校関係者評価）で、学校の取組に対する意見・感想をいただき、今年度の学校評価を終えた。

《学校評価年間計画》

	生徒	保護者	職員	学校評議員
4月	・新入生調査			・委嘱
5月		・公開授業アンケート ・PTA総会（前年度評価結果資料）	・学校評価年間計画策定	
6月	・授業評価の項目検討		・学校自己評価重点目標等策定	
7月	・授業評価 ・キャリア教育・進路学習調査	・学級懇談会 ・教科書選定（PTA役員代表）	・授業評価分析 ・キャリア教育・進路学習調査分析	・第1回学校評議員会（学校評価年間計画周知） ・教科書選定（学校評議員代表）
8月	・授業評価報告			
9月		・総合祭（文化祭）		・総合祭（文化祭）
10月		・学校教育評価項目検討	・学校自己評価（上半期）と項目検討	
11月		・公開授業アンケート		・公開授業アンケート
12月	・学校生活アンケート	・学級懇談会 ・学校教育評価実施	・授業評価分析 ・学校教育評価実施	・学校関係者評価項目検討
1月	インターンシップアンケート（総合学科1年）			
2月	インターンシップアンケート（工業科2年）	・学校教育評価結果報告（PTA評議員会）	・学校自己評価（年間） ・成果と課題、改善策取りまとめ	・第2回学校評議員会（学校関係者評価）
3月				

2 評価結果のまとめ

(1) 学校自己評価結果

各校務分掌・学年団・教科の今年度の取組に対する自己評価結果は、4段階評価のうち3＝「だいたいできている」に集中している。統合初年度ということで新規の行事や規模の大きくなった行事への対応で、これまでよりも各分掌の負担は増加したものと推察されるが、当初の目的を達成することで概ね成果をあげていると言える。

生徒指導部の「2」という評価は、生徒数増により仕方ない部分もあるが、遅刻数の増加を改善できなかったこと及び交通ルールや携帯電話の使用マナーを守れなかった生徒が多数いたことなどが要因として考えられる。また、統合前の2校にあったルールの違いや指導基準の認識のずれが教員間や生徒間に存在することも一因かと思われる。現在、生徒指導部を始め各分掌・教科・学科で今年度の反省と次年度に向けて改善策を検討したところである。

(2) 学校教育評価（保護者アンケート）の分析と考察

①校務分掌、学年団の取り組みについて、すべての質問項目に対して、A＝「そう思う」、B＝「だいたいそう思う」の肯定的な回答が8～9割を占めている。E＝「判断ができない（わからない）」の回答が多くなっている教育研究部、教育相談部、教育情報部は、具体的な取組の内容が保護者に伝わっていないことが要因と考えられる。教職員と保護者でアンケートの評価結果の乖離を小さくする努力が必要であり、学校だよりやホームページで積極的な情報発信に務めたい。

②教育情報部のホームページによる最新情報の提供については、C＝「あまりそう思わない」が11.5%、Eが14.1%を占めている。Eの評価はHPを見ていない保護者によるものと思われるが、Cの評価は、明らかに学校からの情報発信が少ないとの評価であり、①と同様に改善が必要と考えている。一方、新たに開設した公式Facebookページで修学旅行の様子をリアルタイムに発信したことに対しては、2年生の保護者から高い評価が得られている。今後とも学校だよりやHP及びFacebookによって学校の活動に関する情報を積極的に発信したい。

③保護者からのコメントには、本校の教育活動への賞賛の意見がある一方で、地域住民としての立場から本校生徒の交通マナーの悪さなどに指導改善を望む声も寄せられており、具体的な対応が必要である。基本的な生活習慣の確立を図るとともに、規範意識の向上に努めたい

(3) 学校教育評価（教職員アンケート）の分析と考察

①総務部、教育研究部、進路指導部、教育相談部など、その取り組みが教員間で情報共有されている項目については、保護者アンケート以上にAの評価が多くなっている。また、学年団の進路意識を育てる指導に関して、昨年と同様に2年生の保護者でAの評価が少なく「なかだるみ」を心配する傾向が見られるが、教職員の回答でも、Cの評価が他の学年よりも多く、進路意識の低い生徒の存在を感じているようである。

②学校規模が拡大したことで職員室が分散し、昨年度までのように気軽に情報交換ができる環境がなくなったと感じている教職員が多い。何らかの改善策が必要である。

(4) 学校関係者評価

- ① 統合後、初めての文化祭である「総合祭」の賑わいが印象に残った。両学科の特色が表面に表れており、生徒たちの意欲を高めることにつながっているとの意見をいただいた。
- ② 生徒が増えたことによって部活動や学校行事が活性化されるなどプラスの面がある一方で交通マナーの悪さが目立つなどマイナスの側面も目立つようになっている。何らかの対策が必要との意見が出された。
- ③ 食物系列の高校生レストランや出前授業などの地域貢献が積極的に行われており、こうした取組の継続をお願いしたいとの意見が出された。

3 次年度の課題

- ① 本校は、自分から進んで質問したり自分で判断して主体的・積極的に行動したりする生徒が少ない。部活動の活性化や地域連携の機会を活用してこうした生徒の育成に務めたい。また、進路意識の向上や学習面での積極性を育てるために、生徒の質問に対応する教員の態勢づくりや進路指導室の利用を促す工夫を考えたい。
- ② 働き方改革の推進を図るため、校務分掌など教員一人当たりの業務量の軽減をはかり、多忙感の解消や、生徒に向き合ったり教員同士がじっくり話し合ったりする時間の確保につなげて行きたい。

平成29年度学校自己評価:重点目標、具体的方策、評価一覧

香川県立観音寺総合高等学校

資料1

4 よくできている 3 だいたいできている 2 少しかつてきている 1 ほとんどできていない

評価
10月 年間

分 掌	今年度の重点目標	具体的方策	10月	年間
総務部	PTA活動の活性化を図る。	研修旅行等の行事で多くの保護者がPTA活動に参加していただくように呼びかける。PTAだよりで広報を行う。	3	3
教務部	統合初年度の学校運営を円滑に進める	学校行事の運営や各業務において、統合により生じる問題等を調整・解決し、組織的・効率的に行えるよう協議したり見直したりする。	3	3
教育研究部	ユネスコスクールとしての取組を充実する。	SDGsを意識させながら、各教科の学習内容や生徒の活動内容を工夫させる。	2	3
生徒指導部	集団生活を営む上での基本的な生活習慣の育成	服装の整備(頭髪・装飾品・化粧品を含めた指導)、時間を守る。(始業・授業遅刻をなくす)	3	2
特別活動部	主体的に活動に取り組む生徒の育成	各活動に生徒が事前準備や実践に取り組む機会を増やす	3	3
進路指導部	生徒の進路設計を支援する進路指導の工夫	生徒の進路希望を考慮しつつ、業者やハローワークとの連携を図り、各種のガイダンス・説明会を適宜実施する。また、生徒の進路意識が高まるように、進路情報を提供する。	3	3
人権・同和教育部	校内人権・同和教育の充実	現地学習をはじめとする生徒が主体となる活動の推進	3	3
教育相談部	校内連携の充実や支援体制の強化を図り、要支援者にとって必要な支援を丁寧に行う。	各分掌との校内連携やSC・SSWとのケース会等を通し、役割分担しながら、それぞれの立場で為すべき必要な支援を丁寧に行う。	3	3
保健環境部	自己の健康管理を適切に行う	歯科検診、視力検査において要受診となった生徒が多いため、その2つの検診に関する事後措置を適切にとれるように指導する。そして、要受診者の受診率を上げ、健康の保持増進に努める。	2	3
教育情報部	セキュリティに関する意識を高める。	ウイルスチェックやUSBの管理を行い、常に安全な環境で作業を行うよう喚起する。	3	3
事務部	学校施設の安全性向上	日常点検により危険・不良箇所を早期発見し、修繕・改善により安全性を向上させる。	3	3
1年団	高校生としての自覚を持ち、基本的な生活習慣を身に付けさせるとともに、自ら進路選択を行うための意識を育成する。	産業社会と人間やLHRや授業を通して、基本的な生活習慣の育成や進路意識を形成させる。	2	3
2年団	進路に応じた学力を身につけさせ、線路選択に向けて自分で考え、行動する力を養う。	提出物等の徹底により進路に応じた学力を身につけさせ、進路選択へ向けて前向きに取り組めるようにする。	3	3
3年団	進路目標に向かって努力を続けられる生徒の育成と社会人としての礼儀や言動を身につけさせる	自分を知り、進路について調べ進路を確実に決定していくのと同時に落ち着いた言動がとれるように指導していく。	3	3

分 掌	今年度の重点目標	具 体 的 方 策	10月	年間
国語	基本的な語彙や常用漢字を習得し、適切に表現できる力を身に付けさせる。	定期テストや実力テスト、小テストを通して、語彙や漢字の習得を目指す。	3	3
地歴・公民	知的好奇心を喚起し、基礎学力の定着を図るとともに課題を探究する能力の増進をはかる。	多様なメディアにより知的好奇心を喚起し、講義形式で基礎学力の向上を図るとともに、グループ学習等により課題探究能力を育成する。	3	3
数学	学習に取り組む姿勢を身につけさせ、基礎学力の定着を図る。また、上位層の学力向上を目指す。	授業への取り組みを徹底させ、基本事項の定着を目指した課題や小テストを実施する。また、上位層への個別指導を行う。	3	3
理科	自然に対する関心を高めるとともに、基礎学力と科学的な思考力を身につけさせる。	授業への取り組みを徹底させ、基本事項の定着を目指した課題や小テストを実施する。また、上位層への個別指導を行う。	3	3
保健体育	体力の向上と生涯スポーツへの取り組みの意識づけを図る。	体づくり運動を工夫したり、一貫した指導体制の中で、自ら考える力の養成や自主性を重んじ、生涯スポーツに通じる得意種目をつくらせる。	3	3
芸術	生徒の自主活動を支援し、様々な創造や表現の喜びを体験させる。	生徒の希望や実態に応じた課題を設定し、自主的に学習に取り組むことで生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てる。	3	3
英語	英語を使って、積極的に自己表現したり、他人とコミュニケーションをとろうとする態度を育成する。	授業中に毎回何らかの形で、英語での自己表現活動や、ペアワーク・グループワークを取り入れる。また、可能な範囲で、自己表現活動を評価の中に取り入れるよう努める。	3	3
家庭	家庭生活を運営する上で必要な基礎知識・技術を身につけさせる。また、専門教科では食のスペシャリストとしての知識や技術を身につけさせる。	目標に応じた課題を与えたり、実習をおこない主体的に取り組む姿勢を育成する。また、実技テストや資格試験を通して目標を達成させる。	3	3
商業	資格取得に取り組ませる	商業に関する検定試験にチャレンジさせ、より多くの資格の取得を目指す	3	3
情報	情報活用の実践力を養う	情報機器、アプリケーションソフトを自由に扱うことで、基本操作を理解する。	3	3
福祉	福祉が生活に根付いたものであることを理解させ、基礎的な知識・技術を身につけさせる。	身近にある生活上イメージしやすい内容を精選し、相手の思いを感じ取ることができ、自分の考えを述べることができるよう体験や演習を行う。	3	3
機械科	機械に関する基本的知識や技術を身につけさせる。資格取得を積極的に取組ませる。	科目ごとの目標を明確にし、授業に対して取組む姿勢を重点的に指導する。資格取得の合格率を向上させる。	2	3
電気科	統合1年目なので、生徒が落ち着いた姿勢で授業、課外活動に前向きに取り組めるようバックアップ体制を整える。	定期的に各担任などへのヒアリングを行うとともに、担任や他教員、生徒から自発的に連絡・報告がくる体制を整える。	3	3
電子科	社会人として必要な基礎知識・技術を身につけさせる。また、専門的な知識や技術・技能を身につけさせる。	各学年の目標に応じた課題や実習を行い、主体的に取り組む姿勢を育成する。生徒各自が資格試験に挑戦し、自分を伸ばすことに心がけるよう指導する。	3	3
総合学科	身近な課題に気づき、その解決に取り組もうとする態度を養う。	自分で考え、工夫して取り組むことができるように支援する。	3	3

平成29年度 学校教育評価表(保護者アンケート)集計結果

資料2		A そう思う	B だいたいそう思う	C あまりそう思わない	上段:実数 下段:%			
		D まったくそう思わない			E 判断ができない(わからない)			
		評価内容						
		A	B	C	D	E		
1	総務部	PTA研修旅行や総合祭PTA展、観総合PTAだよりの発行など、本校のPTA活動は活発である。	193 25.2	460 60.1	49 6.4	1 0.1	63 8.2	
2	教務部	学校は、学校だよりや保護者説明会などを通じて、学校行事や教育活動についての情報を分かりやすく提供している。	217 28.3	459 59.8	56 7.3	1 0.1	34 4.4	
3	教育研究部	学校は、環境教育、国際理解教育、福祉ボランティアなどの新しい教育課題についてよく学ばせている。	154 20.2	411 53.8	66 8.6	1 0.1	132 17.3	
4	生徒指導部	学校は、服装の整備や時間の厳守など集団生活を営むうえでの基本的な生活習慣を育てている。	314 40.9	411 53.6	29 3.8	3 0.4	10 1.3	
5	特別活動部	学校は、学校行事や生徒会活動、部活動などに主体的に取り組む生徒を育てている。	267 35.1	424 55.7	42 5.5	2 0.3	26 3.4	
6	進路指導部	学校は、進路に関する各種ガイダンスや説明会を実施して、生徒の進路設計を支援している。	255 33.8	413 54.8	43 5.7	2 0.3	41 5.4	
7	人権・平和教育部	学校は、さまざまな教育活動を通じて、生徒の人権を尊重する心を育てている。	198 25.9	449 58.7	44 5.8	3 0.4	71 9.3	
8	教育相談部	学校は、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとともに、生徒や保護者の相談に対応する態勢を整えている。	173 22.5	440 57.3	39 5.1	2 0.3	114 14.8	
9	保健環境部	学校は、定期健康診断結果の周知等を通して家庭とも連携し、生徒の心身における健康な生活態度を育てている。	218 28.5	454 59.3	48 6.3	3 0.4	43 5.6	
10	教育情報部	学校は、見やすく分かりやすいホームページやFacebookで最新の情報を提供している。	172 22.8	382 50.7	87 11.5	7 0.9	106 14.1	
11	事務部	学校の施設・設備について、安全で快適な学習環境が保たれている。	315 41.4	390 51.2	28 3.7	1 0.1	27 3.5	
12	学年団	1年	学校は、生徒が高校生としての自覚を持ち、基本的な生活習慣と進路意識を身につけるよう指導している。	107 39.5	150 55.4	8 3.0	1 0.4	5 1.8
		2年	学校は、生徒が進路選択に向けて自分で情報を収集し考え決定する力をつけるよう指導している。	52 21.3	156 63.9	25 10.2	2 0.8	9 3.7
		3年	学校は、生徒が自己の適性を知り、将来の姿を現実的に描いて進路目標を早期に明確化し、達成できるよう指導している。	120 48.8	109 44.3	11 4.5	2 0.8	4 1.6

(回収数761/848、回収率89.7%)

平成29年度 学校教育評価表(教職員アンケート)集計結果

A そう思う B だいたいそう思う C あまりそう思わない
D まったくそう思わない E わからない

上段:実数

下段:%

I. 学校自己評価に関するもの

		評価内容	A	B	C	D	E	
1	総務部	研修旅行や総合祭PTA展、持久歩大会補助などPTA活動が活性化されている。	22 28.2	51 65.4	3 3.8	0 0.0	2 2.6	
2	教務部	学校行事の運営や各業務について、効率化、簡素化が行われている。	9 11.1	54 66.7	14 17.3	2 2.5	2 2.5	
3	教育研究部	ユネスコスクールとして、ESD委員を中心に生徒が工夫して取り組める活動を進めている。	29 35.8	45 55.6	1 1.2	0 0.0	6 7.4	
4	生徒指導部	服装の整備や時間の厳守など集団生活を営むうえでの基本的な生活習慣を育成している。	7 8.6	60 74.1	12 14.8	0 0.0	2 2.5	
5	特別活動部	学校行事や生徒会活動、部活動などに主体的に取り組む生徒を育成している。	11 13.6	57 70.4	8 9.9	0 0.0	5 6.2	
6	進路指導部	生徒の進路希望を考慮しつつ、ハローワークや業者と連携し、各種ガイダンス・説明会を実施して生徒の進路意識を高めている。	25 30.9	51 63.0	2 2.5	0 0.0	3 3.7	
7	人権教育部	人権・同和教育LHRの指導案を改訂するとともに、生徒が主体的に活動する人権学習を推進している。	19 23.5	55 67.9	1 1.2	0 0.0	6 7.4	
8	教育相談部	SC、SSWとのケース会等を通して、校内の支援体制を強化し、支援の必要な生徒に対して可能な支援を丁寧に行っている。	22 27.5	52 65.0	1 1.3	0 0.0	5 6.3	
9	特別活動部	歯科検診・視力検査における要受診者の受診率を上げ、生徒の健康の保持増進に努める態度を育てている。	8 9.9	62 76.5	3 3.7	0 0.0	8 9.9	
10	保健環境部	各分掌でのファイルの整理を行うとともにセキュリティの意識を高めている。	11 13.6	52 64.2	12 14.8	1 1.2	5 6.2	
11	教育情報部	日常の点検により危険・不良箇所を把握し、早期に修繕・改善を行い、安全で快適な学習環境が保たれている。	17 21.0	60 74.1	2 2.5	0 0.0	2 2.5	
12	学年団	1年	生徒が高校生としての自覚を持ち、基本的な生活習慣と進路意識を身につけるよう指導している。	10 14.5	51 73.9	2 2.9	0 0.0	6 8.7
		2年	生徒が進路選択に向けて自分で情報を収集し考え決定する力をつけるよう指導している。	9 12.3	49 67.1	6 8.2	0 0.0	9 12.3
		3年	生徒が自己の適性を知り、将来の姿を現実的に描いて進路目標を早期に明確化し、達成できるよう指導している。	10 13.0	59 76.6	1 1.3	0 0.0	7 9.1

Ⅱ. 学校経営・教育活動に関するもの

	評価内容	A	B	C	D	E
13	本校の教育課題や年度の教育計画について、職員会議をはじめ各種会議において話し合う機会が持たれている。	15 <i>18.8</i>	56 <i>70.0</i>	6 <i>7.5</i>	0 <i>0.0</i>	3 <i>3.8</i>
14	体罰やセクシュアル・ハラスメントの防止をはじめ、生徒の人権を尊重する立場に立って、生徒の指導が行われている。	20 <i>25.0</i>	55 <i>68.8</i>	0 <i>0.0</i>	0 <i>0.0</i>	5 <i>6.3</i>
15	教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある。	12 <i>15.0</i>	58 <i>72.5</i>	5 <i>6.3</i>	1 <i>1.3</i>	4 <i>5.0</i>
16	各分掌や各学年団で課題や悩みが気軽に相談できる雰囲気がある。	14 <i>17.5</i>	52 <i>65.0</i>	8 <i>10.0</i>	0 <i>0.0</i>	6 <i>7.5</i>
17	事故、事件、災害等に対して迅速かつ適切な対処ができるよう、危機管理の役割分担が明確化されている。	14 <i>17.5</i>	61 <i>76.3</i>	1 <i>1.3</i>	0 <i>0.0</i>	4 <i>5.0</i>
18	校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施され、教育実践に役立つような内容となっている。	9 <i>11.3</i>	57 <i>71.3</i>	5 <i>6.3</i>	1 <i>1.3</i>	8 <i>10.0</i>